

# 地域で活動する団体が行うみちあそびイベントの運営に関する研究

1882057 森 慧悟

指導教員 高見沢 実教授 野原 卓准教授 尹 莊植助教

## 1 研究の概要

### 1. 1 研究背景・目的

近年、まちのにぎわいを創出するものに対し道路占用許可を特例として認めるといったことのように公共空間の利活用のニーズが高まっている。そもそも、「みち」は多くの活動が溢れ、人々の交流が生まれる場所であった。昔に比べ、ご近所づきあいが少なくなってきた今、「みち」での活動は地域の関わりを生み出すきっかけになりうる。

また、「みち」はこどもにとって遊びの原空間の一つと仙田は言う。<sup>(注1)</sup> 車社会で交通事故の危険や、こどもが「みち」で遊ぶ事を近所迷惑として捉える道路族の問題もあり、日常的に「みち」で子供が遊ぶ事が出来る世の中ではない中、まずイベントとしてみちあそびを行う事は、地域の中でこどもへの理解をしてもらい、こどもを地域で見守り、育てる社会をつくる活動と言える。

本研究はみちあそびの良さを見つけ、みちあそび実施にあたっての課題や工夫を明らかにする事を目的とする。

### 1. 2 研究方法

東京を中心にみちあそびを実施する団体を支援している一般社団法人 TOKYO PLAY (以後 TOKYO PLAY) の役割を明らかにし TOKYO PLAY と提携している団体がみちあそびを行った「みち」をその「みち」に接する建物用途の特徴から分類し、それぞれの「みち」でみちあそびを実施したみちあそびパートナー1 団体ずつに実施プロセスに沿ってヒアリングと Google フォームのアンケート、実地調査を行う中でみちあそびの良さ、課題や工夫を明らかにする。

## 2 TOKYO PLAY の役割

### 2. 1 みちあそびとは

本研究ではみちあそびを TOKYOPLAY の掲げる誰もが通る身近な「みち」で、大人も子どもも誰もが一緒に楽しめる「あそび」を通して地域に住んでいる人が繋がる活動<sup>(注2)</sup> とする。

### 2. 2 TOKYO PLAY について

TOKYO PLAY は「すべての子どもが豊かに遊べる東京。」というビジョンを掲げ、様々な活動を行っている。

### 2. 3 とうきょうご近所みちあそびプロジェクトについて

TOKYO PLAY の活動の一つでみちあそび活動に取り組む

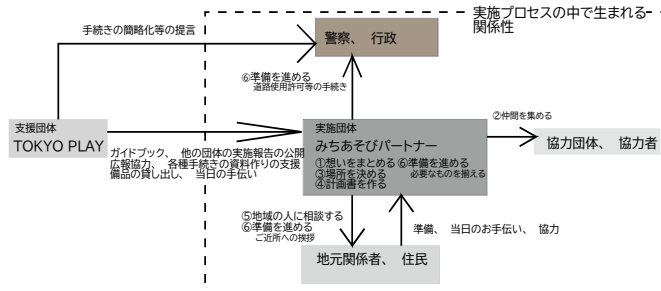


図1 TOKYOPLAYの支援と実施プロセスで生まれる関係性

パートナーを募り、実施を支援するプロジェクトである。みちあそびを実施する上での団体の関係性を図1に示す。

### 2. 4 みちあそびパートナーに対する TOKYO PLAY の役割

TOKYO PLAY はみちあそびパートナーが自ら動き、地域の人と繋がる事、自分達で用意できるモノで実施する事が大事と考えており補助的な役割を担う。また、行政に道路使用許可を取りやすくなるように働きかける事、みちあそびを広める事でみちあそびのしやすい社会を目指している。

### 3 みちあそび実施場所の類型化

#### 3. 1 みちあそび実施の上で重要だと考えられる事の仮説

2. 4 よりみちあそびは自分達で動く力を持っていないと実施できないと思われ、実施できている団体はみちあそびの良さを感じ、みちあそびを通しての目標といった「熱意」を持ち、実施場所を構成する要素となる「空間」や協力団体の関係や各種手続きの申請といった「システム」に課題や、それを乗り越える工夫があったのではないかと考えた。

#### 3. 2 仮説に基づく実施場所の分類

「空間」の分析をするため、HP、SNS より実施の確認が出来たみちあそびパートナー50 団体の実施場所を分類した。

(図2) 2. 4 より道路使用許可が「システム」上の課題であると考えられるので道路使用許可の必要な「住宅街」「商店街」「みちあそびパートナーの施設前」「地域の施設前」で実施したみちあそびパートナーにヒアリングを行った。

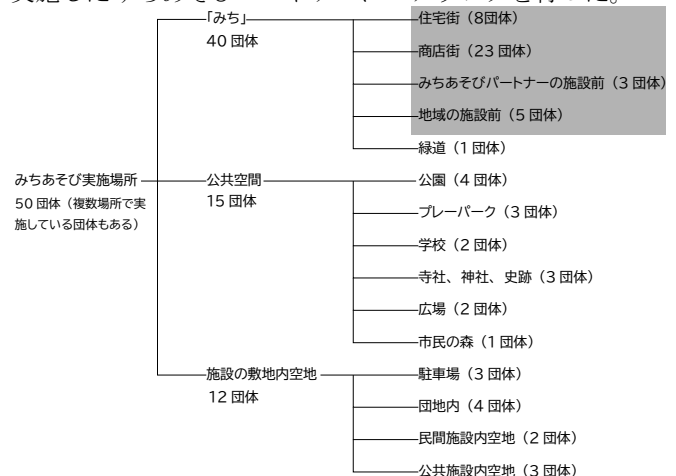


図2 みちあそび実施場所の分類

### 4 各実施場所で実施したみちあそびパートナーの事例

ヒアリング、アンケート、HP の情報、現地調査で得た事を「基本情報」「熱意」「空間」「システム」に分類し、表1にまとめた。

### 5 まとめ

#### 5. 1 「熱意」

表1のB-②からみちあそびの良さはただ通りすがっただけでその場の雰囲気を感じられ、自由に参加出来る「みち」の良さ、誰もが経験し、子どもに教えられるため参加と運営

	case1 みちあそびパートナー A	case2 高学年の廣場つくりサークルへBASHO	case3 NPO 法人ゆたりのーの	case4 ゆまこころ実行委員会
A 基本事項	①団体の活動目的 ②実施場所 ③実施場所の分類 ④主催	地域の支援 六角橋西町の住宅街 住平街 六角橋自治連合会 支え繋プラン策定委員会 六角橋地区社会福祉協議会 六角橋西町自治協力会	子ども支援 ゆたりのーの前 みちあそびパートナーの施設前 NPO 法人ゆたりのーの	地域をなく AEL 湯島駅前 地域の施設前 ゆまこころ実行委員会
	⑤後援・協力など	〔協力〕 TOKYOPLAY わかまつや 子どもプロジェクト・セタがや 国士館大学西村研究室 その他各商店や地域の個人の方多数 〔後援〕 世田谷区 世田谷区教育委員会 松陰神社通り松栄会商店街振興組合 若林町会 世田谷東町会	〔協力〕 TOKYO PLAY 北山建築士 社会福祉法人アゼリア会 あかね館 〔後援〕 新宿区・新宿区社会福祉協議会	民間学童クラブ AEL 湯島 湯島PTA 湯島子育て支援会 幼稚園会 天梅会 町町会 天三町会、同朋町会、白梅商店会
B 経過	①みちあそびをはじめたきっかけ	第 4 期地域福祉保健計画の柱として「子ども支援」が挙げられ、その目玉企画としてみちあそびを推進したため	当施設を施設周辺地域の方々に知ってもらった 多世代交流を生じたかった	旧住民と新住民とが気軽に触れ合える場づくりのため
	②みちあそびの良さ	・自由に来て自由に出られる	・道はふらっと参加しやすいので卒業した子どもも参加できた ・ふらっと立ち寄って参加してもしなくても良い ・色々用意したが、何もなくても楽しめる大人と子どもが遊びを通して関わる ・昔を懐かしむ声が聞えた ・当日、参加者が手伝いをしてくれた	・出入りが自由 ・道というフラットな場所でも思い思いに過ごす中で参加者どうしの交流が生まれる
	③みちあそびに期待する効果	・多世代交流の場になる ・地域の活性化 ・子どもを地域で育てる社会の実現 ・子どもが社会のルールを学ぶ ・地域への愛着のある住民を増え、地域活動に参画する住民が定数を越えて増えることで、地域活動が活性化される好循環を生み出すこと	・多世代交流の場になる ・地域の活性化 ・子どもを地域で育てる社会の実現 ・子どもが社会のルールを学ぶ ・子どもが地域で育つことが、現在自転車通りで激しく存在しない商店街で子どもと自転車が共存し、放課後、子ども達が安心して歩け、過ごせる店舗所になっている	・多世代交流の場になる ・多世代交流の場になる ・子どもを地域で育てる社会の実現 ・子どもが社会のルールを学ぶ ・旧住民と新住民の緩やかな融合
C 内容	①幅員 / 歩道の有無 ②「みち」の条件による特徴 ③面する建物 ④面する建物による特徴	①3.8m/ なし ②4.8m(保通 + 公道) / 私道が遊歩道 特設道路から一本外れ、幅員狭く、車通りが少ない 戸建住宅、子育て支援施設、動物病院 ・子育て支援施設があり、当日の協力もしてもらいやすい	4.4m/ 両側に白線のみ 自転車へのみの明快な迂回路の設定 商店 ・店先空間に受付を置かせてもらえる ・商店街なので普段から人通りがあり、地域の建物によりやすい ・商店会、お店から声を借りる事が出来る	3.8m/ 片側に白線のみ 幅員が狭く、お互いに顔が見える空間で歩道である 中学校、高齢者施設、企業、戸建住宅 子育て支援施設 ・施設の空地を利用してイスなどを置ける ・トイレが近く利用しやすい ・物の出入れが容易で準備付けがしやすい
D スタッフ	①実施運営にあたっての協力者（後援も含める） ②初回実施時の道路使用許可の申請時の警察の対応 ③2 回目以降の道路使用許可の申請時の警察の対応 ④道路使用許可をもらうための工夫 ⑤必要なものの揃え方 ⑥みちあそびパートナー制度について TOKYO PLAY の役割で重要な点、助かった点	・普段から子どもに関わる団体と地域について活動している団体（町内会）が一緒に実施 ・複数回しうられたが許可がおりた 2 回目の実施はまだない ・町内会に協力してもらう ・お祭りや許可がおりた前例のある場所を選んで ・行政計画にみちあそびを位置付ける ・普段子どもに関わる団体から遊び道具を借りる ・ガイドブックの公開 ・企画書、道路使用許可などの書類の作成例を見せてもらえる ・物品の貸し出し ・イベント実施時のお手伝い ・セミナーの開催 ・みちあそびをしやすい社会にするための活動（行政への提言など）	・普段から子どもに関わる団体と地域について活動している団体（町内会）が協力して実施 ・複数回しうられたが許可がおりた 1 回で申請の許可をもらえた ・町内会に協力してもらう ・商店会に協力してもらう ・普段子どもに関わる団体から遊び道具を借りる ・ガイドブックの公開 ・企画書、道路使用許可などの書類の作成例を見せてもらえる ・みちあそびをしやすい社会にするための活動（行政への提言など） ・みちあそびをしやすい社会にするための活動（行政への提言など）	・複数回しうられたが許可がおりた 1 回で申請の許可をもらえた ・町内会に協力してもらう ・初回実施時はお祭りや許可がおりた前例のある場所を選んで ・普段子どもに関わる団体から遊び道具を借りる ・みちあそびをしやすい社会にするための活動（行政への提言など） ・みちあそびやフワフワの共有。他ではどんなことをどんな方法で実現している、など参考にする。

注2. [「遊ぶ」をつくる | 一般社団法人 TOKYO PLAY \(tokyoplay.jp/create/\)](http://tokyoplay.jp/create/)

[Return to top](#)